

第8号

編集発行／碧南市

哲学たいけん村

無我苑

所在地／碧南市坂口町3-100

〒447：TEL. 0566-41-8522

：FAX. 0566-41-7761

〈マチエール〉とは、フランス語で「画家が絵具などを使って出す質感や絵肌」を意味する。

洋画家、須田剋太氏は司馬遼太郎氏の著作「街道をゆく」で挿絵を担当していた。今回の展示は氏の未発表の作品を中心に、陶板、書なども展示している。

もくじ

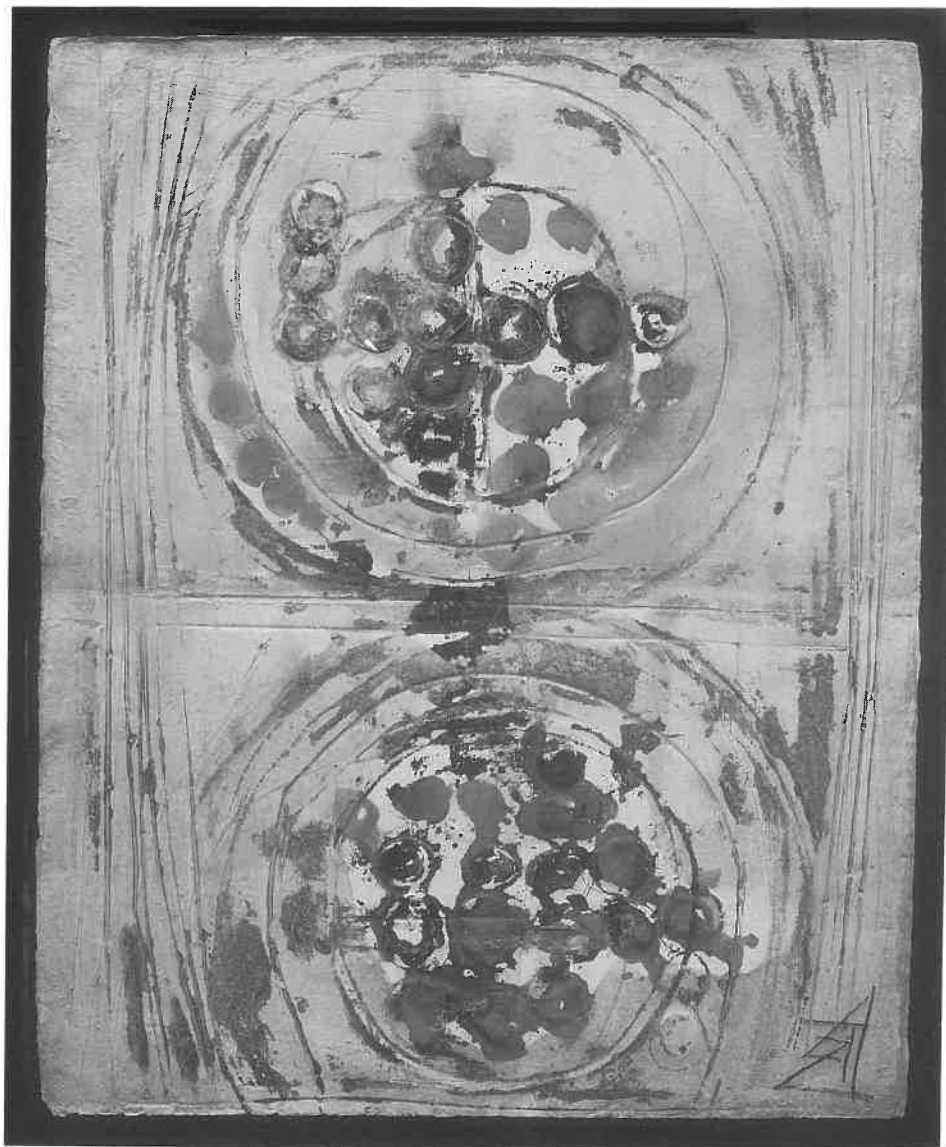
瞑想回廊第8回企画展示開催中

須田剋太氏の略歴

鳥山貫一さんが語る
「伊藤証信先生の思い出」

本の情報・お知らせ

梅原村長トピックス
など



瞑想回廊第8回企画展示開催中

マチエールへの希求

須田克太の抽象画

9・5・20〜7・20

須田克太 (1906.5.1〜1990.7.14)
洋画家

「読書する男」が第3回文展で特選
光風会会員

「神将」が第5回文展で特選
「ピンクのターバン」第3回日展で特選

国画会会員

ブラジル・サンパウロ・ビエンナーレに出展

アメリカ・ヒューストン美術展
イタリア・プレミオ・リソーネ展
アメリカ・ピッツバーグ・カーネギー

展、ドイツ各地巡回展に出展

「週刊朝日」に連載の挿絵担当

著書 『私の造形』など
逝去 (享年84歳)
講談社出版文化賞受賞



鳥山貫一さんが語る

「伊藤証信先生の思い出」

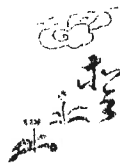
(5月11日 インタビュー)

旧無我苑が碧海郡西端村(現在の碧南市)に新築落成したのは昭和9年、苑主伊藤証信は58歳であった。鳥山貫一さん(明治36年生)は当時、氏を西三河にお招きした地元青年団の一人で、旧無我苑の仔細を知る貴重な語りべだ。

そこで哲学たいけん村周辺にある鳥山さん宅を訪れ、伊藤証信翁にまつわるエピソードを聞くことにした。

鳥山さんが伊藤証信先生とお会いになったきっかけは、何だったのでしょうか。鳥山 先生のごことは、友人を介して知りました。先生が地方遊説に来られた時、仲間と一緒に聴きに行ったりもしました。私が小・中学校の教員をしていた頃、遊び仲間が私を含めて5人いました。原田新治君、原田七郎君、杉浦進一君、杉浦民一君、そして私。民一君の家の前に空き家があったので、そこに集まっては、雑談にふけていたのです。

伊藤先生のごことも、そこでお話になっ



たのですね。

鳥山 私達仲間は、田舎の者にしては垢抜けした連中でした。伊藤先生は、その頃、「精神運動」や「無我愛」といった機関誌を出版なさり、遊説で全国各地にも行っておられました。5人の仲間は暇をみつけて先生の住む大日堂(東京巣鴨)まで出掛け、遊ばせてもらったり、泊めてもらったりしました。先生は「田舎育ちの連中にしては、進歩的だ」と言っていて、可愛がってくださりました。私は教員をしていました、仲間内でも一番若かったから、大日堂に行く余裕はありませんでした。

無我苑落成の経緯

伊藤証信先生が大日堂から、西端に移られたのは、どういった事情があったのでしょうか。

鳥山 関東大震災で大日堂が焼けてしまつて、伊藤先生は住むところが無くなつて、困ってしまわれたのです。私たち仲間は、西端であき子夫人とお暮らしにな

ることを提案しました。私たちのたむろする空き家なら家賃はいらないし、お米一俵、つまり先生とあき子夫人が食べていく分は、なんとかします、と申し出ました。伊藤先生は快く誘いに乗ってくださいました。

お友達との集会所、つまり「竜灯窟」で伊藤証信先生はお暮らしになったということですね。

鳥山 そうです。竜灯窟は、8畳真四角、回り縁付の一家家でした。先生ご夫妻は、しばらくそこで暮らしになりましたが、住まいを変えたい、というあき子夫人の希望で、私達はまた別の場所、つまり現在、旧無我苑の跡地と言われている場所をお二人に無償で提供しました。

無我愛の思想

伊藤証信先生について、特に心に残っていることは、何でしょうか。

鳥山 無我愛の思想です。私も始めは無我愛の(宗教)だと思っていました、(無我愛)というのは、宗教じゃない。

これは哲学と言っている。先生は私が個人的にする質問にも、とても真面目に答えてくださりました。たとえば「この宇宙は全て無我の愛の活動である」とは、どんな意味なのでしょう、と。先生は無我の愛に初めて気付いた時、感激され、泣けて泣けて、しようがなかった、と言われました。この世の中は実に有り難い



んだ、と、そうおっしやられました。

鳥山さんは「無我の愛」をどのようにご理解されましたか。

鳥山 人間は欲で生きていくじゃないか、と思うでしょ。先生はね、それがみな無我の愛だ、と説明された。人はみな一生懸命働いて何かしている。自分の運命というものを考えずに「生きる」というお芝居をしている。勉強も仕事も、生活すべてが、お芝居。人生のお芝居は命がけですよ。どう生きればどう死ぬのか、人は皆、観覧料も払わずに他人のお芝居を見て、人の生き方を教わる。芝居するのもタダなら見るのもタダでしょ。人はタダで人に生きざまを教え、無料で芝居をしている、こういう活動を無我の愛、と伊藤先生は考えておられました。

無我の愛は、人に教えるから「愛」、というわけですね。すると、私たちは伊藤証信先生から「無我愛」の思想を教わる以前に、既に無我の愛の活動をしてい

る、と考えていいのでしょうか。
鳥山 それはそうです。人間だけじゃない。ここにある茶わんも、壊れるまで人の役にたつててくれる、つまり無我の愛の活動をしておる。障子も、破れて腐るまで障子としてたつておるのです。運命なんて考えず、相手のために働いておるから、無我の愛の活動と言っんです。他力ではなしに、それが大自然の法則である、と考えるのです。

伊藤証信先生は誰にでも分かりやすくご自分の思想を説明なさったそうですが、鳥山さんの説明で私にも少し理解できるようになりました。

鳥山 他の4人の友人がどう考えていたかは、分からないけれど、私は先生の思想を、そう理解していましたよ。



伊藤証信

1876〜1963(明治9〜昭和38)

(生)三重県 (名)幼名は清九郎 (学)真

宗大学本科卒、研究科中退=14歳で得度、

名を証信と改め、1901(明治34)真

宗大学が東京に移った際、上京、巢鴨の

小堂に住み、清沢満之の精神主義、トル

ストイの人道主義の影響のもとに05無

我苑を開き、宇宙の本性は無我の愛にあ

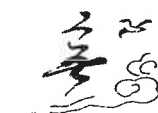
るとする「無我愛」の真理を説いた。一

時河上肇も教職を捨ててこれに参加。徳

山女学校・中外日報などに勤務しながら、無我愛の修行と宣伝に従事し、廃刊していた機関誌「無我の愛」を23(大正12)再刊(のち「愛聖」と改称)。

著「無我愛の真理」1921、「無我愛の哲学」1993。

(コンサイス日本人名事典より抜粋)



本の情報

●不二出版様

『伊藤証信とその周辺』

柏木隆法

明治38年3月の末、当時は東京の郊外だった中山道の巢鴨庚申塚の近くにあって大日堂にひとりの青年僧が住みついた。名前を伊藤証信といい、真宗大学の研究科に籍をおく学生だった証信はこの大日堂を「愛楽堂」と名付け、付近の森を総称して「無我苑」と呼んで、自分の霊的体験をもとに修養克己の生活にはいった。たったひとりの無我愛運動のはじめだった。...



お知らせ

哲学たいけん村開村5周年記念

『記念茶会』と

『横笛コンサート』

を開催

哲学たいけん村は平成4年6月にオープンして、今年で開村5年目を迎える。これを記念して「記念茶会」と「横笛コンサート」を当村で開く。

▼日時 10月10日(金)

「記念茶会」

10時〜

「横笛コンサート」

18時30分〜

▼出演 鯉沼廣行氏ほか

※詳細は広報へきなん、また、村民の方にはメールでお知らせします。



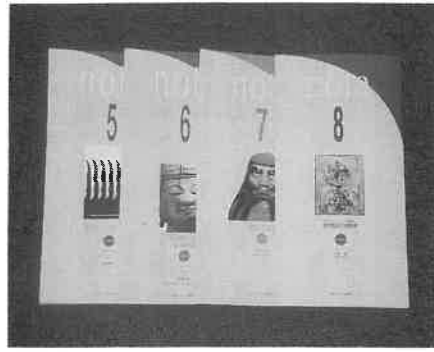
『nota(ノート)のご案内』

「nota(ノート)」はドイツ語で記

(符)号、書出し、覚書という意味。

瞑想回廊企画展示のテーマに基づき、年に1〜2回発行されている。主な執筆者は開村以来、哲学たいけん村の企画運営

にたざさわっておいでの久野昭氏(中京女子大学アジア文化研究所所長)。バックナンバーもお分けているので、ご希望の方は瞑想回廊事務室まで。



梅原村長トピックス

ペンクラブ会長に梅原猛氏を選出

新聞等の報道機関によると、4月24日、日本ペンクラブの通常総会と理事会が東京都内で開かれ、任期満了となった尾崎秀樹氏の後任に梅原猛氏を選出、日本ペンクラブ会長第13代目に就任が決定、と報道された。

梅原先生の近著「京都発見」(新潮社)は読売新聞の文化面で長期に渡り連載した「地霊鎮魂」を改題し、本にした保存版。紙上連載時と同様、井上隆雄氏の撮影する写真も美しく、京都で暮らす先生が古都への熱い想いを綴っている。

梅原先生のますますのご活躍を祈念したい。

フォト



無我苑(昭和11年春)



書斎の証信翁



あさ子夫人とともに



講演会風景

来村者の声

◎いつ来てもリラックスできて、嬉しいです。
(市内 女性)

◎今のような時代、こうした場所に訪れるのはとても大切だと、日々思っています。
(安城市 男性)

◎誰も知らない、私だけの場所、そんな空間であって欲しい。
(一宮市 アルバイター)

◎多くの若者が、現代文明の中に呑み込まれ、生きることにも、もがき苦しんでいる。本当の宗教とは、何なのか。私達自身も宗教とは無縁に過ごしてきました。瞑想回廊に来て、静けさの中、先人たちの種々の言葉に何かを得られたのでは、と思いました。もつと証信師の思想に触れたい。無我愛に感謝、ありがとうございます。
(名古屋市 男性)

◎こんな街中に心安らぐ場があるなんて知りませんでした。他の人にもぜひお勧めの場所です。
(蒲郡市 看護婦)

